

# 平成 27 年度 4 月 1 日訓示

平成 27 年 4 月 1 日

礼文町長 小 野 徹

**「優しさをもって  
動じない心を養おう！」**

～ 思いを言葉にする… ～

みなさん、おはようございます。いよいよ平成 27 年度の始まりであります。私も 10 回目の新年度の訓示を行うことになります。昨年もいろいろなことがあり、皆さんには大変なご苦勞をおかけしたわけでありまして。特に、8 月 24 日、わが町はこれまで経験したことのない「50 年に一度」と云われた 200 ミリを超える集中豪雨により大きな災害に見舞われました。土砂崩れによってお二人の貴い生命が失われ、町内各所に土砂災害、河川の氾濫など甚大な被害となったところでございます。お二人のご冥福をお祈り申し上げます。この災害以外にも、数回にわたって低気圧による被害がありました。そのたびに、職員の皆さんには、大変厳しいつらい思いをさせたこと、心からお詫びを申し上げます。しかし、私達には町民の皆さんの生命財産を守るという大きな使命があります。近年の異常ともいえる気象を考えると「50 年に一度」と云われた大雨も、これからは当たり前のことと認識しなければならないと思います。今回の災害を教訓として防災対策になお一層の努力を傾け、二度と、あのような被害を出さないようにと改めて心に誓うところでございます。

さて、先ほど人事異動の辞令交付をいたしました。それぞれにいろいろな動きの中での異動であります。動いた人、動かなかった人とさまざまあるわけですが、動いたから意味があり、動かなかった人は意味がないということではありません。人事異動は、適材適所と云われるようにそれぞれに意味があることを認識していただき、早く仕事に慣れて、町民皆さんの幸せのため頑張ってくださいようお願い致します。

新採用の皆さん、おめでとう。皆さんは大きな夢と希望を持って公務員の道を選ばれたわけであります。

いろいろ不安な気持ちを抱えながら、また、期待に胸をふくらませていることと思いますが、私が、皆さんに期待することはたくさんあります。知っていただきたいこと、それゆえ最初に期待することの一端を申し上げたいと思います。

それは、「公務員というのは一生を懸けるに足る職業であり、自分の人生を託するに値する仕事である」ということでもあります。

先ほど皆さんの代表の方が宣誓をされました。まさしく、その通りであり、特定の方の利益であったり、自分自身の利益を優先したりすることがないように、より高い、強い倫理性が求められ、仕事をしていくうえでの公平性や、常に正しいことを行っていくということが私達公務員の置かれている立場でございます。

政治を志す人は、自分が学問を修めて精神を磨き、人格を高めようとすることで人々を安らかにすることにあり、権力や功利主義によらず、徳によって治めることなんです。

だから、皆さんの身分は法律できちんと保障されるのだと云うこと、公務員という特殊性というものを、勤務を始める日によくよく心得てほしいのであります。

これから、いかにキャリアアップして「町民みなさんの幸せのために頑張れる役場職員」となれるかが皆さんの務めであり、さきほど、皆さんの身分は保障されていると云いましたが、身分が保証されているから何もせず、<sup>あんのん</sup>安穩と過ごしてもいいということでは決してありません。

身分が守られていることで勘違いしてしまう。権利だけを主張し、公務員としての大事な義務を果たさない職員であってはならないということを再認識していただきたいと思います。

私たちの住んでいる礼文島は一番北の島であります。だから、いつもアンテナを高く張り、外からのいろいろな情報を取り入れ、それを自分の仕事や職場、そして自分自身の人生にいかしていただきたい。だから、島以外の人達との交流も大事にしてほしいと思っています。

「公務員というのは一生を懸けるに足る職業であり、自分の人生を託するに値する仕事である」 この言葉の意味は、これから仕事を通して一つひとつ感じていくことになりますので、これ以上は申し上げませんが、だからこそ、自分をしっかりと持ちながら励んでいただきたいと願っております。

今日から、新しく仲間になられた皆さんに心からお祝いを申し上げますとともに、若さあふれるフレッシュな感覚を発揮し、わが町の活力を出していただくこと、自分自身を鍛えていただくことを期待しているところでございます。

さて、今年は、「地方創生元年」とも言われております。人口減少が進む今の日本。このままでは田舎から人がいなくなってしまうと危惧され「地方崩壊」が心配されています。

礼文島も昭和31年には1万人を超える人口がありました。にしんは獲れなくなりましたが、コンブ漁で浜が沸いていたことを思い出します。昭和30年代から40年代にかけては、就職のため島からたくさんの人たちが都会に出ていきました。そして、平成23年1月、とうとう3千人を割り込み、今は2,716人であります。

そんな中、昨年5月に日本創生会議が発表した2040年のわが町の人口は1,263人と推計されました。このまま、何もしなければ、消滅の可能性が心配される町村の一つになると云われています。

しかし、このまま手をこまねているわけにはいきません。地方創生元年の今年、私達は「まち・ひと・しごと創生法」や「離島振興法」など、ありとあらゆる法律を駆使しながら礼文島版の総合戦略を策定して、礼文島の特徴ある豊かな資源を活かした産業振興を実現し、安心して働くことができる

雇用の拡大、働く場の創造に努め、子育て世代へも積極的な支援を行って、若者が魅力を感じる町にして定着を図ること、そして、都会からもこの島に人の流れを呼び込む手立てを考えなければなりません。

まずは、新年度早々に創生本部を立ち上げ、審議会も立ち上げて、町民の皆さんの声を聞いて、総合戦略を策定していきたいと思っています。

そこで総合戦略を策定するにあたっての私たちの姿勢についてお話しします。さきほど「町民の皆さんの声を聞いて」と申し上げました。このことに限らず行政の基本は、まさしく、この「町民の皆さんの声を聞くこと」から始まるのでございます。

ちなみに、役場庁舎の「庁」の字は、旧字体では「廳」と書きます。屋根のある建物の中(广)で、話を「聴<sup>き</sup>く」ということです。「聴」をさらに分解すれば、「十四の心に耳」を傾けるということ。たくさんの町民の皆さんの声に耳を傾け、それに応える場が役場、町民の皆さんのお役に立つ場所が役場ということでございます。

でも、私たちは、「聴く」ということを、おろそかにしてはいないだろうか…？ 他人の話を聴かないで済ませてはいないだろうか…？ と思うのです。

以前に比べたら、皆さんが町民の皆さんの声を聞くことも、役場の中で皆さんが互いに話しをする機会もずいぶん減っているように思います。わが町ではないと思いますが、近年は職員が隣の席や向かいの席の同僚にメールで要件を伝えるというような笑えない話もあるそうです。

仕事を行ううえで、地域の課題は、たくさんあると思います。

だから、相手の言うことによく耳を傾けることが大切で、それを確認し、限られた財源を工夫しながら対応するには、まず、職員の皆さんが何事にも「動じない心」をもって、町民の皆さんの話を広く受け入れる心が必要であります。

町民の皆さんの声に注意深く、また、一生懸命に耳を傾けること、そうすることによって、相手の気持ちや、やるべき事が見えてきます。相手の立場に立って物事を考えると信頼関係も生まれます。



そして、さらに、大事なことはそれを行動に移すことです。  
実行に勝るものはないのであります。

やりたいこと、なりたいもの、こうありたいという願いは  
言葉に出したほうがいいのです。

言葉にした瞬間から進む方向が見えてきます。  
誰かに話したりすることで、思いを具体的な目標にできるの  
です。

具体的な目標ができれば、今、何をすればいいか、何を選  
べばいいかわかります。このように、言葉にすると進むべき  
道が見え、自分にエンジンがかかる。言葉にすることで、自  
分が動きだせるのです。

役場には、それぞれの担当に分かれていますので、市民の  
皆さんの話を聴いたら、次は、役場職員同士がお互いに仕事  
を受け持っている中で話をするということです。

地域の声に耳を傾け、動じることなく、関係する職員が互  
いに相談しあい、トータルに対応する体制を作る。

このことが大事で、そのための対話の場が、今の役場に求  
められていると思います。

自分にも、他の人に対しても心優しい言葉を使いましょう！ 心が癒され、安心できる、また、やさしい気持ちになれるような言葉をたくさん使うように心がけることなんです。そういう心がけをもつことで、深い安らぎに満たされ、周りの人たちとの人間関係も大きな愛情に包まれ、スムーズになっていくのでございます。

繰り返しますが、他の人の言葉に耳を傾けること、そして、自分にも、他の人にも優しい言葉で話すことに心がけること、それだけでコミュニケーションは大きくふくらみます。

また、「皆さんが話し合う」ことで解決の糸口が見つかり、「一つずつ解決する」ことで、コミュニケーションが深まり、信頼が生まれます。それが、役場の中で、あるいは課の中で、ともに助け合い、支え合うことにつながって、困難な仕事に立ち向かおうという機運が生まれてくるのです。

一生懸命頑張っていると誰かが救いの手をさしのべてくれる。私は、これを、皆さんの「財産」にしていきたいと思います。優しさをもって、より多くの人たちとの豊かなつながりを作り上げていきたいと思いますと思っていますのでございます。

結びになります。本町の27年度予算に26年度の補正予算を加えますと総額57億2千900万円という積極型の予算であり、皆さんが一生懸命作った予算に町民の皆さんが大きな期待をしているということでもあります。

議会でも申し上げましたように、明るい未来を切り開くためには「未来に元気のタネ」をまかなければなりません。

そして、そのタネをまくのは職員の皆さんであります。自分が担当している仕事の中に、「礼文らしさ…」とか「礼文ならではの…」と云った所謂「攻めの取組」ができないかを見つけだし、もっともっとふるさとを元気にしていただきたいのです。

私は礼文島に住む<sup>みんな</sup>皆の笑顔が輝く元気な町を創りたい！と思っています。小さいけれども、今年も「定住対策」に新たな一歩踏み出しました。また、今年も町のいろいろな計画が始まる年でもあります。人生はチャレンジ&アドベンチャーです。夢を叶えるのは簡単ではないけれども、妥協することなく、やり遂げようとするれば夢は必ず叶うと云われます。

問題を解決しようとする前向きな取組み、職員一人ひとりのひたむきな姿勢。そのひとつひとつが積み重なっていくその先に、私は必ず礼文町の明るい未来が開けてくると信じています。

「何事にも動ぜず、また、臆せず、笑顔で人のために頑張れる職員になっていただくこと」、それが、いつも云うところの「スピード感にあふれた清く正しく美しい職員」ということでございます。

どうぞ、皆さんの力で町民の皆さんを笑顔にさせていただきたい。心から、このことを期待して訓示といたします。

平成27年度も、よろしく、お願いいたします。